

「三位一体で取り組むライフコースアプローチの歯科医療」

～ここから広がる歯科技工士、歯科衛生士の可能性～



小林歯科医院

副院長 小林 明子

令和5年5月、厚生労働省は『健康日本21（第3次）』を発表し、その中の項目にライフコースアプローチを掲げました。これは人生を各ライフステージ段階で分けるのではなく、胎児期から高齢期まで人の生涯を経時的に捉えた健康づくりのことを言い、歯科医療としては生涯噛める健康の提供が重要な役割になってきました。日本歯科衛生学会では昨年『ライフコースを通した健口文化の醸成』をテーマに開催されました。また歯科医師の先生方には昨年の歯科診療報酬改定でライフコースが盛り込まれたことは記憶に新しいと思います。歯科技工士にも保険点数に係る項目が多く追加されました。歯科医師、歯科技工士の完結型治療から、健康の回復改善、予防の担い手として歯科衛生士が果たす場面はより幅広いものとなり、まさしく歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が三位一体で取り組む目標です。では実際に日常臨床でどのようにライフコースアプローチを捉えたら良いのか。歯科衛生士には咬合発達や口腔機能、咬合に対する知識やスキル、歯科技工士には歯科医療の一員となるために患者の見方、歯周病の知識なども要求されるようになります。また、現在、高度専門歯科技工士、専門歯科衛生士の取り組みが各々の分野で進んでいることなど最新の情報や、これからの歯科医療の進むべき方向、可能性や展望をお伝えしたいと思います。

明日からの臨床に少しでも元気になるヒントとなれば幸いです。

【略 歴】

1977年3月 東京歯科技工専門学校卒業
1997年3月 日本医学院歯科衛生士専門学校卒業
2009年9月 人間総合科学大学人間科学科卒業
2012年5月～ 小林歯科医院副院長
2019年4月～ 新宿医療専門学校非常勤講師
2020年6月～ 東京歯科短大歯科衛生学科非常勤講師

【所 属】

日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会、日本口腔インプラント学会、日本小児歯科学会、
日本歯科審美学会、日本歯科衛生士学会、日本老年歯科学会、日本医療機器学会
歯科技工士会